

新居 善太郎 (あらい ぜんたろう) —

佐藤 昌  
(前日本公園緑地協会会長)

明治29年(1896)栃木県足利市生まれ。大正10年東京帝国大学法科大学法律科を卒業、文官試験合格後直ちに内務省に入り、12年広島県佐伯郡長から、内務省復興局事務官、総理大臣秘書官、内務省土木局道路課長、同河川課長、同人事課長、厚生省社会局長、鹿児島県知事、内務省国土局長、京都府知事、大阪府知事の要職を経て終戦により退官した。その後は恩賜財団母子愛育会の理事長、会長を最後までつとめ、傍ら河川協会、防災協会、日本公園緑地協会、建設広報協議会、道路緑化保全、奥地開発道路協会の会長及び公園緑地管理財団の理事長を歴任した。また戦後は道路審議会、首都圏整備審議会、水質審議会、人口問題審議会、地方財政審議会、中央公害対策審議会、瀬戸内海環境保全審議会の会長として尽力し、建設省専門委員として建設行政の枢機に携った。

関東大震災(1923)後の復興局時代には、市街地建築物法の立案に関係し、復興区画整理の実施に尽力して、都市計画に関与したが、その後官界にあっては国土局长、知事の大所にあって部下を指導してその実績をあげていた。特に京都府知事時代には、京都市内の幹線街路敷地の建物疎開を実施して今日の用に大いに役立たしめ

た。その際、特に廃材の保存利用を配慮して喜ばれた。

戦後は前記のように各種協会及び審議会において、誠心誠意その指導を行い、特に都市計画においては首都圏整備審議会の会長として活躍されると同時に公園緑地において、河川敷の公園利用を推進した。38年には任意法人公園緑地協会の会長になり、42年にはこれを社団法人として新発足せしめ、会長、名誉会長として、全国の公園緑地の発展に大いに寄与した。特に婦人会を動員して、児童公園を伸展せしめ、また公園緑地五ヶ年計画の原動力となって活躍し、国の公園予算を画期的に増大させた。公園の管理については、財公園緑地管理財団の初代理事長として、清新なる公園管理を指導し、緑化については、道路緑化保全協会の会長及び日本緑化センターの理事として大いに指導力を發揮した。新居は、人格高潔、敬虔なる基督者であり、常に信念を信条として熱心に事に当たり、身を持つすること固い人であった。昭和56年、郷里足利市の名誉市民に選ばれたが、59年1月逝去された。

